

上田西2年連続初戦突破ならず 拮抗した好ゲームも終盤の失点に泣き惜敗

千西一遇

東郷堂
コラボ号

東郷堂コラボ号
(号外・速報通算No.22)
発行
2026年
1月20日(火)
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長：菊池ひとみ
新聞委員長：斎藤 瑠心

大澤 理子
斎藤 慈生
塚田 礼ら
小林 さ未
小島 侑美
レイアウト：菊池ひとみ



第104回全国高校サッカー選手権大会1回戦 水口高校MF 梅田旬主将と競り合う上田西高校MF 宮川航汰主将 写真撮影=小林 さら 2025年12月29日(月) ニッパツ三ツ沢球技場

第104回全国高校サッカー選手権大会 1回戦

上田西 0 (0 0 1 1 0) 1 水口

得点者：76分 中井涼太 (水口)

- <上田西高校 1回戦スターティングメンバー>
- 1 GK 山崎大耀 1年上田第一 / 松本山雅 FC
 - 2 DF 石川柊海 3年塩田 / 松本山雅 FC
 - 3 DF 野澤 波 1年栃木・真岡市立大内 / ともぞう SC
 - 4 DF 小林 稔 3年坂城
 - 5 DF 児島 遙希 2年依田隆南部
 - 6 MF 佐藤大悟 3年新潟・長岡市立関原 / エスプリ長岡 FC
 - 8 MF 眞下 凜 3年東京・青梅市立霞台 / パリオーレ日の出
 - 9 MF 深井 晴雅 3年東御東部 / AC長野パルセイロ
 - 10MF 宮川航汰 3年中込 [C]
 - 7 FW 平松 優樹 3年松川
 - 11FW 末武 優陽 3年埼玉・熊谷市立富士見 / クマガヤ SC
- 監督：白尾 秀人 コーチ：吉田 玲央・山本 海晴

「らしさ」見せるも あと一歩届かず
4度目の選手権で初の初戦 調整の難しさも

2年連続出場となった上田西高校は29大会ぶり16回目の出場である滋賀県代表の古豪水口高校と対戦し、0-1で敗れた。試合は両者譲らず、ロングボールやカウンターなどで攻守が目まぐるしく変わる展開。

前半は両チーム無得点のままハーフタイムへ。後半も一進一退の攻防が続いたが、76分、それまでうまく抑えていた相手のエースFW池口に突破を許すと、池口のクロスカrossからヘディングシュートを決められ、失点。その後最後までゴールを目指してボールを追い続けた上田西だったが、得点を奪うことができず試合終了となった。

4回目の出場で、初めての1回戦。調整に苦勞した部分もあった。昨年より試合が2日早まったので準備が難しかった。コンディションが全員が全員100%じゃなかった。もう少し準備できた。白尾秀人監督は振り返る。慣れない深い天然芝の足を取られ転倒する選手もおり、環境への適応にも苦慮した。

吉田玲央コーチは「大袈裟にダイナミックにプレーする事、喜怒哀楽をハッキリと表現し、後悔ないよう切り切る事、次の事は考えず全てを出し切ろう」と選手達に声を掛け、チームもそれに応えるように全員攻撃、全員守備で「らしさ」を見せ、シュート数は相手を上回ったが、最後まで相手ゴールをこじ開けることはできなかった。

「内容的には、県大会決勝全国まで辿り着いた『最弱世代』」

上田西高校サッカー部は、全国高校サッカー選手権大会に2大会連続出場を果たし、昨年末の12月29日(月)にニッパツ三ツ沢球技場で滋賀代表・水口高校との初戦を戦った。惜しくも上田西は初戦敗退となったが、「最弱の世代」と呼ばれた選手達が全国の舞台に立つまでには、計り知れない努力と大きな成長があった。試合を振り返りながら全国大会の裏側について取材し、まとめた。

(菊池 ひとみ)

「結果が出なかった」と切り出した白尾監督。「練習の雰囲気や取り組む姿勢だったり様々なことが今までで一番厳しかった」と話した。そんな中チームは松本国際をはじめ、強豪校を次々に撃破し全国の舞台へ駒を進めた。昨年の全国ベスト8という実績が選手達の目の前に立ち上がったが、「最弱と言われても結果で見返すためにやってきた」と強い意志を持ち勝ちにこだわった。

そんな世代でキャプテンを務めた宮川航汰主将(進学3年II中込)を白尾監督は「史上最高のキャプテン」と絶賛した。「今年には個性が強いというか

勝で戦った時と近く、相手のレッドカードで数的優位となったからの苦しい時間、点を決められない時間と似たような感じだった。期待に応えられない自分達の不甲斐なさ非常に感じた試合だった」と話す山本海晴コーチの表情は曇っていた。

チームの士気を支え精神的な支柱となっていた眞下凜(進学3年II東京青梅市立霞台)は「とにかくいいプレーも悪いプレーも声をかけて、戦術的にも精神的にも喋ることチームの雰囲気とかを考えずに伝えることを意識した」と振り返る。惜しくも勝利とはならなかったが大きな声で仲間を声かけ必死にボールを追いかけた選手達の勇姿は強く記憶に残るものであった。(斎藤 瑠心)

特徴がある選手が多く早く引退したいと漏らす選手もいる中で、腐らずに最後までやってくれたとその統率力、忍耐力を称えた。

「勝たない、悔しい、歯がゆい、このような感情を武器にしバネにし最後の最後で結果として返ってきたのは頑張った成果の結晶であった」と宮川主将をはじめ3年生の選手達の地道な努力を評価したのは吉田コーチ。

苦しい状況でもチームを支え下を向かず「下剋上」を成し遂げた宮川主将の姿はこの世代にとっても欠かれない存在であり指揮官の目にも強く印象に残った。(斎藤 瑠心)

連続出場でサポート体制も充実

応援団席チケット 700枚完売

第104回全国高校サッカー選手権大会 上田西高校登録メンバー

- 1 GK 山崎 大耀 1年上田第一
- 2 DF 石川 柊牙 3年塩田
- 3 DF 野澤 波 1年栃木・真岡市立大内
- 4 DF 小林 稔 3年坂城
- 5 DF 児島 遙希 2年依田窪南部
- 6 MF 佐藤 大悟 3年新潟・長岡市立関原
- 7 FW 平松 優樹 3年松川
- 8 MF 眞下 凜 3年東京・青梅市立霞台
- 9 MF 深井 晴雅 3年東御東部
- 10 MF 宮川 航汰 3年中込 (主将)
- 11 FW 末武 優陽 3年埼玉・熊谷市立富士見
- 12 GK 湯田 拓海 3年上田第四
- 13 MF 村山 大翔 3年上田第二
- 14 FW 宮下 琉之 3年松川
- 15 DF 渡邊 公輝 2年神奈川・相模原市立上鶴間
- 16 MF 門田 侑都 2年岐阜・大野町立揖東
- 17 FW 山崎 瑠唯 3年東御東部
- 18 DF 石川 楚也 3年埼玉・朝霞市立朝霞第二
- 19 DF 安齋 璃久 3年中込
- 20 FW 細井凜太郎 2年戸倉上山田
- 21 MF 田村 透陽 1年埼玉・さいたま市立美園
- 22 DF 小宮山煌太 3年京都・京都市立大枝
- 23 GK 石澤 和樹 2年川中島
- 24 DF 塚田 琥南 2年犀陵
- 25 MF 塩入 暖也 2年望月
- 26 DF 佐々木優空 2年神奈川・海老名市立今泉
- 27 FW 石亀 悠斗 2年東京・荒川区立第七
- 28 MF 柳原 兼哉 1年千葉・千葉市立松ヶ丘
- 29 DF 内川 翔太 2年上田第六
- 30 FW 小林 笙珠 1年上田第四

監督 白尾 秀人
総監督 武田 善和
コーチ 苫田 玲央
コーチ 山本 海晴
コーチ 小林 健二 (外部)
トレーナー 林 吉尚 (外部)



黄色に染まった上田西の応援席
写真撮影=大島 美唯

「ピッチで戦う選手の背中を押していたのは、スタンドから声を届けた応援団の存在だ。団長の笹木瑛介(進学2年)は「僕は「メンバーに入れない分他の形でチームを引っ張りたい」という思いで団長を務め、試合に出場する選手に少しでも力になり、他のチームから注目される応援を目指した。当日は応援団席700枚が完売し、配布直前まで細かな調整が続いた。応援を担当した教務主任

の白井道彦先生は、前日に会場を視察し当日の入場や誘導のために入念な準備を行った。当日上田西スタンドは黄色一色に染まった。本校卒業生で元プロボクサーの西澤ヨシノリさんの姿もあり、世代を超えた声援がチームを後押しした。

「応援団の反対のベンチで指揮を執った白尾監督は「ホームのような雰囲気だった」としながらも、応援団に勝利を届けられなかったことに悔しさをにじませた。」

(小林 未侑)



応援に駆けつけた上田西高校の卒業生で、元プロボクサーの西澤ヨシノリさん(写真右)と佐藤校長(写真左)
写真撮影=小林 未侑



全国大会のために新調されたユニフォーム
写真撮影=大澤 理子

場を包んだ熱気から、サッカー部が多くの人に支えられていることが感じられた」と話す。ピッチで戦っていた宮川主将は試合の苦しい時などに応援が力となって戦うことができた」と感謝した。

「全国大会に合わせて、今年のチームのスローガン「魂」をイメージしたユニフォームが新調された。数年前からサッカー部のトレーニングウェア等を取り扱う「アクトレス社」から提案されたデザインは、伝統の黄色に加え、ゲームパンツにオレンジの炎模様を施し「魂」を表したデザイン。さら

に肩口には上田市に縁がある真田氏の家紋「文銭」があしらわれた。また、首元は、サッカーのユニフォームとしては珍しい「ヘンリーネック仕様」に。白尾監督は、このユニフォームについて「ポタリと被ってしまったが、アクトレスを採用しているのは長野県内、今回全国に出場した学校の中でも

上田西のみであり、アクトレスとしても上田西としても、特別なユニフォームになった」と満足そうに語った。

「試合本番では水口がオレンジ色、上田西が黄色のユニフォームで、お互い蛍光色で被ったためコイントスで着用するユニフォームを決定した。全国では残念ながら黄色の「ミツバチ軍団」としては戦えなかったが、六文銭で上田市を背負い誇り高いユニフォームで全国の舞台に立てたことは選手たちの心に深く残るものになったはずだ。新ユニフォームは選手のモチベーションをサポートした。」(大島 美唯)

取材を進める中で上田西高校サッカー部には多くの期待が寄せられていると感ずる。2大会連続4回目の選手権出場を果たしたことで、「上田西といえはサッカー強豪校」という印象を持つ人も増えているのではないだろうか。

また、上田西が選手権に出場すると上田西や白尾監督に縁のあるチームが結果を残す。今年初優勝した鹿兒島県代表の神村学園は同じブロックを勝ち上がった。白尾監督の地元である鹿兒島県の与論島からも過去に選手が進学している。

現在まで計4回選手権に出場しているが、上田西が敗れたチームが優勝か準優勝を掴み取る事が多い。これらを考えると上田西が優勝する未来が見えてもおかしくない。「出場すれば勝つ」シンクスは止まったが、来年度以降も期待せずにはいられない。(斎藤 瑠心)

全国に合わせてユニフォームを新調